

## 令和6年度第3回中野市健康づくり協議会 会議経過書

日 時	令和7年1月30日（木）13：30～14：30
会 場	中野市役所 会議室52・53
出席者	<p><b>【委員】</b>            三澤一道会長、小澤美津恵副会長、荒井正彦委員、金山正太委員、東本雅之委員、武田守弘委員、小林みどり委員、吉見和彦委員、石渡孝男委員</p> <p><b>【事務局】</b>            高山健康福祉部長、田中健康づくり課長、土屋健康づくり課長補佐兼健康管理係長、小林保健医療推進係長、久保主査、渡邊保健師、佐野主事</p>
欠席者	高橋智子委員、洞久美子委員、神田文人委員、山口光雄委員、小林豊委員、
次 第	1 開会 2 あいさつ 3 協議事項 (1) 2024健康づくりフェスティバルの実施結果について (2) 中野市いのち支える自殺対策計画の素案について 4 その他 5 閉会
資 料	1 2024健康づくりフェスティバルの実施結果について 2 中野いのち支える自殺対策計画素案

1 開 会     小澤副会長（以後、進行）

2 あいさつ     三澤会長、高山健康福祉部長

### 3 協議事項

(1) 2024健康づくりフェスティバルの実施結果について     **【資料1】**

（説明者：小林保健医療推進係長）

2024健康づくりフェスティバルは昨年10月19日に開催した。来場者数は183名であり、若干であるが昨年より増加となっている。うち26名にアンケート用紙を提出いただき、結果は資料1の2～3ページのとおり。いただいたご意見を参考に、来年度も開催する方向で検討していきたい。

○ 三澤会長

昨年度までの中野保健センターからソソラホールに会場が変更となったが、開催にあたって事務局としてやりやすさや問題点などはあったか、お聞かせいただきたい。

○ 小林保健医療推進係長

昨年度と比較した感触としては、中野保健センターよりもソソラホールの方がよいのではないかと思う。中野保健センターでは各部屋に別れて健康コーナーを行うため、全体の賑わいが見えにくいくところがあった。ソソラホールではオープンスペースに各コーナーが並ぶため、全体を見渡すことができ、賑やかな雰囲気になる。開催準備としては会場の変更による大きな変化はなかった。来年度の会場については今後検討を進めていきたい。

○ 三澤会長

立地も良く、綺麗な会場だったと思う。駐車場のトラブルはなかったか。

○ 小林保健医療推進係長

中野市農業協同組合本所の駐車場も借用していたが、大きな混雑などのトラブルはなかった。

○ 荒井委員

中高医師会の健康相談のコーナーでは、もっと多くの方に来ていただき、気軽に相談してもらえればよかったと思う。当日は少し手持ち無沙汰なところがあった。場所が個室だったこともあり、来場者が入りにくかったのではないか。

○ 金井委員

中高歯科医師会も個室で歯科相談を行っていたが、部屋の位置が会場の端ということもあり来場者からは見えにくかったのではないかと思う。歯科衛生士の方に呼び込みをしていただけて多くの方に来ていただいたが、例年に比べると来場者数が少なかったと感じる。

また資料のアンケート結果を見ると、来場者全体の傾向として高齢の方が多く、20代など若い世代の方に来ていただけていない。今回キッズコーナーを始めたように、若い世代の方にも来ていただけるフェスティバルとなるよう、今後も充実を図っていけたらよいのではないか。

○ 東本委員

中高薬剤師会のコーナーも人通りの少ない場所にあったため、次回は賑わいのある場所にさせてもらえたらと感じた。先ほど金井委員がおっしゃったように、若い世代に向けたキッズコーナーのような取り組みはよいと思うので、来年度以降もぜひ続けていただきたい。

○ 小林委員

中野市食生活改善推進協議会では、例年健康コーナーで試食を提供している。中野保健センターでは調理室がありそこで調理ができていたが、今回は中野保健センターで調理したものをソソラホールまで運び、来場者に提供した。手間としては増えてしまうが、運びやすく配りやすいメニューを選ぶなど工夫することで対応できた。会場としては、中野保健センターでは会場の奥で行っていたためなかなか来場者にコーナーに寄ってもらえていなかったが、今回は人通りの多い位置に配置していただき多くの方に来ていただけたので良かったと思う。

○ 三澤会長

他に意見はあるか。

→意見なし

(2) 中野市いのち支える自殺対策計画の素案について 【資料2】

(説明者：土屋健康づくり課長補佐兼健康管理係長)

現行の「中野市いのち支える自殺対策計画」の期間が今年度末で満了することを受け、「第二次中野市いのち支える自殺対策計画」を策定する。

資料2の1～6ページについては前回の協議会で説明したとおり。

第一次計画における進捗状況はおおむね計画どおりと考えている。第二次計画の基本理念は「誰も自殺に追い込まれることのない中野市の実現」とし、自殺死亡率が上昇傾向にある現状から計画の目標を「令和11年度に自殺死亡率を、令和元年度の自殺死亡率8.89とする」とした。目標の詳細や取組内容等については資料のとおり。

今後の予定としては、2～3月にパブリックコメントを実施し、3月中の計画策定を目指している。本協議会では計画素案の内容のご確認をいただきたい。

○ 三澤会長

計画の内容に関して、これまでのものと変化しているところがあれば教えていただきたい。

○ 土屋健康づくり課長補佐兼健康管理係長

資料42ページの「基本施策5 児童生徒のSOSの出し方に関する教育」については、自殺対策懇話会において教育委員会とのさらなる連携の必要性をご意見いただいたことを踏まえての内容となっている。SOSの出し方教育の現場での指導として、来年度以降、市内小中学校での自殺対策教育の場に市職員が同席することで、教育委員会と連携を深められるようにしていきたいと考えている。

○ 三澤会長

計画の内容が非常に多岐にわたっており、深く理解するのはなかなか難しいところもあるが、これまで取組を拡充されてきた結果であると思う。今後も取組を進めていただきたい。

○ 石渡委員

資料46ページに取組の一つとしてシニアクラブ活動助成事業が記載されているが、シニアクラブ連合会に加入している区の数には年々減少している現状がある。主な理由として、助成をいただくにあたり毎年提出している活動報告書の作成の大変さがある。A4用紙70枚以上にもなってしまう、パソコンが使えないと作成が難しいために退会している人も多い。若者と同様、高齢者の中でも社会参加・地域活動への参加に消極的な人が増えてきている。市の浄財をいただいているわけではあるが、参加しやすくするためにも、ぜひ報告書等の様式の簡素化や作成の指導などを進めていただきたい。

○ 高山健康福祉部長

申請書の簡素化についてはシニアクラブの皆様から他にもお話をいただいている。担当の高齢者支援課と相談し検討していきたい。地域のつながりに関するお話があったが、コミュニケーションが取れる地域社会というのは自殺予防の観点からみても大切だと考えている。今後シニアクラブの活動数が増えることを願い、そのための取組についても高齢者支援課と協議していきたい。

○ 三澤会長

パソコンの使用有無のどちらにも対応できるような形にしていれば、活動を広げていくという目的にもかなうと思うので、ぜひ簡素化を進めていただければと思う。

他に意見はあるか。

→意見なし

4 その他

○ 小林保健医療推進係長

今年後の協議会は今回が最後となる。また、現在各団体に次期任期の委員について推薦依頼を出していることをご承知おきいただきたい。

5 閉 会